

シグマ研究委員会核データ専門部会

ガンマ線生成核データ W.G. 昭和56年度第2回会合議事録

日 時 昭和56年6月29日(月) 13:30~17:30
場 所 原研本部第6会議室
出席者 浅見(哲), 水本, 五十嵐(原研), 吉田, 川合(NAIG),
山越(船舶研), 井頭, 播磨, 北沢(東工大)

配布資料:

- 1) INDC (NDS) -112 の調査報告資料(井頭)
- 2) DIGSTOR の使用例(山越)
- 3) NESTOR-2 の file の中の natural Mo のガンマ線生成断面積データの処理結果(水本)
- 4) NGROGI code による計算結果の International Nuclear Model Comparison への提出資料(播磨, 川合)
- 5) Precompound 及び DSD 過程を含めたガンマ線生成断面積の計算に関する文献(北沢)

I. 一般報告:

- 1) 日本からの NEA Data Bank への大量の data request に対して, 日本が local な international data center をつくることを目論んでいるのではないかという危惧がある。(五十嵐)
- 2) 特定のメンバーに配布する原研資料及び News などの情報をできるだけ多数の W.G. のメンバーに流してほしい。(五十嵐)

II. 作業経過報告:

- 1) 資料1の説明。この W.G. に有用な data は非常に少ない。thermal neutron に関しては Bartholomew と Groshev の compilation, keV 中性子領域では Bird によるものがあるのみ。(井頭) thermal neutron

に関してはGAの compilation がある。(水本)

2) 前回配布されたDIGSTORの入力フォーマットについて検討された。

ref. の入れ方をもっと簡単にしたらどうか。(山越)

Card化の際はDUPE等で処理できる。(水本, 川合)

資料2の説明。(山越) 角度分布の data を入れる。(播磨) En の lower と upper bounds を入れる。(水本) MT (reaction type) を list of parameters より上の rank にしてはどうか。

3) 資料3の説明。評価する上で low energy gamma-rays をどのように扱うかが問題である。Howertonの方法を用いることもできるが。(水本)

Howertonの方法を採用した場合 discrete gamma-rays の実験的情報が無いものに対しては、これらをどのような nuclear model に基づいて予測したらよいか。(北沢)

4) 資料4の説明。(川合) E 2 sum-rule を使用したのか。(北沢)

NGROGI の中に option としては入っているが、まだ使用していない。

(川合) ^{60}Co の gamma-ray absorption cross section が二つの巨大共鳴ピークを持つのは事実か。(北沢) NEAからの指示である。(川合)

5) 資料5に基づいて precompound 及び DSD 過程のガンマ線生成への寄与について説明。(北沢)

次回 7/13 今後の作業の進め方について議論する。